

## 時を経て、心をつなぐ



野笹 玲子

教育者 ボランティア活動家  
(高校25回) 東京都大田区在住

創立百周年を迎え、心よりお祝い申し上げます。

私は卒業後、大学の初等教育学科に進学し、長野県の小学校教師を経て結婚。二人の子供の出産、子育ての後に教師に復職し、小学校受験に携わって23年。

2001年に横浜市あざみ野に、教室を独立開校して10年目を迎えます。

毎年120名程のお子様達をお預かりして、18名の教職員と共に、幼児教育に情熱を燃やす毎日ですが、教師として、また経営者としての大きな責任を担って歩む日々のなかで、「リーダーシップ」と「勤勉」であることの重要性を感じます。

特別な能力も才能も持ち合わせていない私は、「人から信頼される人間になること」その為には、「人を支えてあげられる能力を備える努力」が必要であると考えました。結果この「リーダーシップ」と「勤勉さ」は、どちらも弥生時代に養われたものだと気づきました。

生徒会長やルーム長としての活動や、体操クラブのチームメートと共に、汗と涙を流して、インターハイを目指した青春の日に、人を思いやり、人と共に育ってゆくことの素晴らしさや、何事も怠けず、絶まず努力を続けてゆけば、結果は後からついてくる。少なくとも後悔することは決してないことを学びました。

今自分が必要とされることの幸せと、周りに信頼できる仲間達がたくさんいてくださる幸せを感じる時、今日の私が在るのは、あの弥生の3年間に、「生きてゆく力」を育てていただいた教育の賜物であると実感いたします。

独立して5年目の2004年、スマトラ沖大地震を機に、これまで私が頂いた優しさを、少しでもお返し

したいという思いで、津波の被害にあったスリランカの子供達の為のボランティア活動を始め、衣類を持って現地に行きましたが、悲しむ子供達を前にして、これから何ができるのかを自問自答しました。

帰国後すぐに、「こども寄金」を設立し、一人では何もできないけれど、みんなが集まれば何かができる。だから「とにかく始めよう」と声をあげました。

嬉しいことに弥生の後輩の皆さん達が、3年前から私の活動に賛同して、心強い応援をしてくださっています。

生徒会の取り組みとして、弥生祭でバザーや募金活動をしてくださり、毎年一基ずつスリランカの貧しい農村に井戸を建設することができました。

遠く離れたスリランカの山の中の村々に、「伊那弥生ヶ丘高等学校」の名前が刻まれた井戸が存在し、その井戸によってたくさんのスリランカの人々を笑顔にし、生命をつないでいるのです。

今年の募金では、長い内戦で傷つき苦しんできた、スリランカ東部ポロンナルワの村に井戸を寄贈していただきました。

小さな子供から老人まで、全ての村人たちがどんなに喜んだことでしょう。

その喜びを、若い世代の後輩達が、自分の喜びとして受け止めてくださっていることを、心から嬉しく思います。

また、ある大先輩が、ご主人様と長年続けてこられた、ボランティア活動の一つとして、「こども寄金」にも、ご寄付くださり、スリランカに井戸を2基作ることができました。

こうして、長い歴史を経ても「弥生」という家族がつながり合える喜びを感じると共に、私達の「弥生」にとってこの百周年が、一つの集大成であり、脈々と受け継がれてきた、伝統や思い出を大切にしつつ、また新たな出発となりますことを切に願い、期待してやみません。

母校伊那弥生ヶ丘高校の益々のご発展と、在校生、卒業生の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。